



音楽会に向けて！

音楽会は、体育館を会場に行われますが、体育館には、音楽会の練習期間には、ひな壇が設置されます。ひな壇を舞台に、子供たちが合唱に合奏にと活躍する姿を披露してくれます。実は、そのひな壇は毎年本校職員と6年生の手によって設置されます。先月31日(月)の朝7時40分に体育館を覗いてみると、殆どの職員と6年生の子供たちの有志が体育館に集い、力を合わせながらマットを引いて、ひな壇を設置していました。音楽会に向けて、「師弟同行」の姿があり、師と弟子が共に力を合わせていました。このように、本校では伝統的に、職員と子供たちが自然と力を合わせる風土があります。この日々の潜在的教育効果が、プラスに働いて、大きな結果に結び付くと思っています。そして、その姿を認め合う評価ツールが「4つの心」であり、成長への実感を味わうことになるのだと思います。



学校の植栽について

学校の敷地周辺や敷地内の植栽された木々は、環境に潤いを与えます。また、緑豊かな環境は、心理的に落ち着きを与え、犯罪を生むことへの抑止力につながることも考えられ、防犯対策上有効であると言われています。本校では、それらを踏まえて、校舎内や敷地周囲等からの見通しを確保し死角の原因とならないよう植栽計画は立ててあります。クスノキ、モクレン、キンモクセイ…など、目視できる木々は200本以上、また、低木も含めると300本以上の木々が学校には植えてあります。



しかし、樹種、樹高等に応じ定期的に剪定するなどの維持管理は、教育委員会にお願いすることもあります。それにも限界があり学校での維持管理が殆どです。創立以来、たくさんのお木が植えられ、どの木も立派に成長しています。成長と同時に老いていく木や伸び放題の木もあります。そのような木をいつも事務の今村先生が、事前に把握し、橋本先生が剪定等行うというナイスな連携がなされています。

先日2日(水)は、橋本先生がチェーンソー片手に、木の伐採をしている場面に遭遇し、カメラに収めました。こういう作業のひと手間が、周辺住民からの見通し・風通しのよい学校になるのだと思いました。